



魚津港より出土した埋没林（昭和5年頃）

国・特別天然記念物

魚津埋没林

うおづまいぼつりん
魚津市釈迦堂（魚津市）

魚津埋没林は約2000～1500年前、海面の上昇などが原因で埋没したと考えられるスギ原生林の跡で、魚津港一带のおもに波打ち際付近から内陸側の地中に埋蔵されている。埋没林が根を張った地盤は現在の海面より低い高さにあり、海面が変動したことを示している。

出土する大型樹根のほとんどがスギで、根際の直径が3 m、推定樹齢が数百年に及ぶ大木もある。昭和5年の魚津港修築工事では二百数十株も出土したと記録され、現在も魚津港一带に多数埋蔵されていると考えられる。過去の調査では、樹根のほか、樹幹、種子、花粉、昆虫類などが出土しており、植物は70種以上、昆虫は30種以上が確認されている。

魚津埋没林は、過去における海岸線の変化や当時の植生を知るうえで貴重であることから、その包蔵地が昭和11年に国の天然記念物に、さらに昭和30年には特別天然記念物に指定された。指定地は魚津埋没林博物館の敷地となっており、同館で埋没林の実物を観察することができる。